

指導事例

※ 該当する項目を囲み線で囲ってください。

学びの場	特別支援学級・通級による指導・通常の学級・その他		
校 種	小学校・中学校	学 年	1・2・3・4・5・6年
指導場面	授業・学級活動・学校行事・学校生活・その他		
障 害 種	弱視・難聴・知的障害・肢体不自由・病弱・言語障害・自閉症・情緒障害・学習障害・注意欠陥多動性障害・その他		
教科・行事名等	小集団活動		
タイトル	ソーシャルディスタンスを意識した小集団活動		
児童生徒の障害による学習上・生活上の困難・課題	人との距離の取り方が難しく、近くに寄ってしまいがちである。		
上記困難・課題を踏まえた指導の目標・配慮事項	・相手との距離を保って、話を聞くことができる。 ・密集を避けて、活動に取り組むことができる。		
上記困難・課題を踏まえた感染拡大防止の取組	・カードの上に座ることによって、相手との距離を保つことができる。 ・具体的な指示によって、相手との距離を保つことができる。		

※ 以下に事例の内容説明を簡潔に記入ください。

- ・本校には特別支援学級が4学級あり、その児童が集まって活動する時間が設けられている。20名を超える児童と一緒に活動する。
- ・教室で活動する際は、相手との距離の目安として、1人1枚のカード（各学級ごとの花の名前）を床に貼り付け、その上に座るように指導している。
- ・また、いつもは1教室で活動しているところを、3つの場所に分けて活動した。
- ・体育館で活動する際は、具体的な指示として「Tゾーン」を取り入れている。
「Tゾーン」とは、ソーシャルディスタンスが保たれるように、児童が両手を真横に広げ、前後左右の間隔を取るために行う。
- ・並ぶとき、活動するときに、適宜「Tゾーン！」と声をかけることによって、相手との距離を保つように指導している。

指導事例

※ 該当する項目を囲み線で囲ってください。

学びの場	特別支援学級・通級による指導・通常の学級・その他		
校 種	小学校・中学校	学 年	1・2・3・4・5・6年
指導場面	授業・学級活動・学校行事・学校生活・その他		
障 害 種	弱視・難聴・知的障害・肢体不自由・病弱・言語障害・自閉症・情緒障害・学習障害・注意欠陥多動性障害・その他		
教科・行事名等	自立活動		
タイトル	ソーシャルディスタンスってなに？ ～友達との適切な距離を知ろう～		
児童生徒の障害による学習上・生活上の困難・課題	普段から人との距離の取り方がわかりにくい児童が多い。 感染症予防の観点からも人との適切な距離を知る必要がある。		
上記困難・課題を踏まえた指導の目標・配慮事項	友達と1m以上離れて集合する。		
上記困難・課題を踏まえた感染拡大防止の取組	感染防止に必要な人と人との距離を体感し、理解する。		

※ 以下に事例の内容説明を簡潔に記入ください。

体育館のような広いスペースを使用。

- 1 1m以上の距離をあけてアクティブプレイスポット（円形のもの）を設置する。
- 2 学級ごとに1列で自分のマーカーの上に座る。
- 3 自分の場所を覚える。
- 4 マーカーを置いたまま、壁にタッチして正しく自分のマーカーに戻ってくるゲームに取り組む。
- 5 密にならないように、「走らない」「ぶつからない」等の注意をしておく。
- 6 同じ壁にタッチしない等、ルールを追加しながら何度も繰り返す。
- 7 最後は、マーカーを外して取り組ませる。
- 8 児童達は、だんだん友達との距離が近くなる傾向があるので、自分の位置に戻った後、前後左右を確かめさせ、適切な距離を取ることができているかをふりかえらせながら続けていく。



指導事例

※ 該当する項目を囲み線で囲ってください。

学びの場	特別支援学級・通級による指導・通常の学級・その他		
校 種	小学校・中学校	学 年	1・2・3・4・5・6年
指導場面	授業・学級活動・学校行事・学校生活・その他		
障 害 種	弱視・難聴・知的障害・肢体不自由・病弱・言語障害・自閉症・情緒障害・学習障害・注意欠陥多動性障害・その他		
教科・行事名等	日常生活・体育		
タイトル	体育 de ディスタンス		
児童生徒の障害による学習上・生活上の困難・課題	人との距離の取り方が難しい。気になることがあると近寄ってしてしまう。イレギュラーなことがあると落ち着いた行動を取りにくい。つい、しゃべってしまうことがある。		
上記困難・課題を踏まえた指導の目標・配慮事項	感染防止に必要な決まり事があることを理解する。 感染防止に必要な距離を保って運動をする。 視覚化して、決まり事を理解させる。		
上記困難・課題を踏まえた感染拡大防止の取組	個々の位置を指定することで物理的な距離を確実にとらせることができる。約束事を常に掲示することで、イラストを見て思い出せる。		

※ 以下に事例の内容説明を簡潔に記入ください。

- ・ 特別支援学級全体で行う体育で使用している輪っかを予め、児童の活動場所に設置しておく。(児童間が2mになるように)
- ・ 体育をするとき・した後の約束として体育の授業内で説明し、輪っかに立たせることで、2mという距離がどれ程なのかを体感させる。(約束は交流級での体育でも行う約束事と同様に設定している)



- ・ 体育時の約束事をイラストで表し、毎日繰り返し特別支援学級の体育で守らせることで習慣づけさせる。



指導事例

※ 該当する項目を囲み線で囲ってください。

学びの場	特別支援学級・通級による指導・通常の学級・その他		
校 種	小学校・中学校	学 年	1・2・3・4・5・6年
指導場面	授業・学級活動・学校行事・学校生活・その他		
障 害 種	弱視・難聴・知的障害・肢体不自由・病弱・言語障害・自閉症・情緒障害・学習障害・注意欠陥多動性障害・その他		
教科・行事名等	自立活動		
タイトル	ソーシャルディスタンスを体得しよう		
児童生徒の障害による学習上・生活上の困難・課題	人との社会的、物理的な距離感がわかりづらい。		
上記困難・課題を踏まえた指導の目標・配慮事項	ダンスや歌、かけ声などを通して、ソーシャルディスタンスを意識した行動様式を体得する。		
上記困難・課題を踏まえた感染拡大防止の取組	学校生活において、人が集まる場所や話し合いの場面で、感染リスクを下げることができ、同時に対人関係スキルの習得にもつながる。		

※ 以下に事例の内容説明を簡潔に記入ください。

1. 「TT体操」の動画を見ながら、音楽に合わせた動きを楽しむ。
2. 動きの意味、解釈について説明する。
(本来は、健康体操→両手をまっすぐに横に伸ばすことで、周囲の人と距離を保つことができる。)
3. どんな場面で必要とされ、生かすことができるか考える。
 - ・ 列に並ぶとき
 - ・ 順番を待つとき
 - ・ 大勢の人が集まったりすれ違ったりする場所で（靴箱、給食室、廊下、階段）
 - ・ 先生や級友に話しかけるとき
4. 合言葉に合わせて動きを習得させる。

【出典】 You Tube 「TT兄弟とソーシャルディスタンスを覚えよう」
 You Tube 【TT兄弟】監修者 TIPNESS 部長バージョン